

対象	小学校中学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学4年 「きょう土のはっ てんにつくす」
教科書	東京書籍等
掲載日	2019.7.18. 朝刊三社 12版

「長七たたき」堤防 碧南にも



長七たたきは強度が強く、当時高価だったコンクリートの代わりに使われた。水にも強いことから、明治期には服部が全国の治水工事などで手掛けた。愛知県三河地方を流れる矢作川流域などで取れるまさ土と消石灰を水で練ってたたき固めて造った。中部地方では、国の重要文化財「四日市旧港の潮吹き防波堤」（三重県四日市市）に使われているほか、愛知県内では小規模のものも含めて天野研究員が約五十カ所を確認している。

碧南市の堤防護岸で今月十二日に行われた調査では、二カ所の計五百メートルの長七たたきが石垣の間に挟み込まれていた。天野研究員は「ほぼ建造当時の状態でこれだけの規模で残っているのは極めて貴重」と話す。堤防は百九十年前の江戸時代、水田を干拓した際に造られ、数年間をかけて服部自身が補強工事を手掛けた。長七たたきで補強されたことで、周囲の水害は大幅に減ったとされる。

堤防護岸の補強工事で、石垣の間に挟み込んで使われた「長七たたき」を前に説明する天野武弘研究員＝17日、愛知県碧南市川口町で

十八日は服部の没後百周年。今回の調査は、碧南市藤井達吉現代美術館が今秋開催する関連の企画展に向け、服部の実績を記録した史料に基づいて行われた。



人造石の考案者出身地

明治時代の土木事業者服部長七（一八四〇～一九一九年）が考案した人造石「長七たたき」を使った堤防護岸が愛知県碧南市川口町で見つかった。愛知大中部地方産業研究所の天野武弘研究員（モミ）と市文化財課の調査で判明。服部の出身地である碧南で発見されるのは初めてで、市は国の登録文化財を目指す。（福沢和義）

問1：服部長七は、何時代に活躍した人ですか。 （ ） 時代

また、どこの出身ですか。 （ ）

問2：「長七たたき」とは、どんなものでしょうか。

服部長七が考案した人造石である。愛知県（ ）地方を流れる矢作川流域などで取れる（ ）と消石灰を水で練ってたたき固めて造ったもので、（ ）が強く、（ ）にも強いことから、全国の治水工事などで使われた。

問3：長七たたきで堤防が補強されたことで、どんな効果があったでしょう。

周囲の（ ）が大幅に減った。

発展：地域の発展に尽くした人にはどんな人がいるのか、調べてみましょう。